

# I 確かな学力の育成

確かな学力を育成するためには、以下の3点が重要です。

- 「検証改善サイクルを生かした授業改善」
- 「補足的な学習の計画的な実施」
- 「家庭における学習習慣の確立」



## 1 検証改善サイクルを生かした授業改善に向けて

検証改善サイクルとは、学力向上に向けて1年間を見通して取り組むためのものです。県教育委員会では、「全校体制で取り組むポイント」を以下のように示しています。

### 検証改善サイクルを活性化するための4ステップ

**ステップ1** 全職員で調査問題の趣旨（メッセージ）を確認する。

- ①まずは、問題を教師自身が解くことから始める。
- ②どのように思考・判断し、どんな記述の力が必要かを体感する。

**ステップ2** 全職員で調査問題の結果を分析し、課題の所在を話し合う。

- ③子どもたちの弱点を知ることを大切にする。
- ④誤答傾向や不十分な解答に指導改善のヒントを得る。

**ステップ3** 全学年を通じて、年間の見通しの中で課題を解決する。

- ⑤調査問題を教科書教材と関連付ける。
- ⑥自校の年間指導計画（例：備考）の中に課題を明記（朱書き）する。
- ⑦上記⑤・⑥と同時に授業で活用できる資料を明記する。

**ステップ4** 調査問題や調査結果を活用した授業を構想する。

### 管内の参考となる取組例

- 実際に、教師が問題を解いて、課題を共有する。
- 全学調や県学調の実施後すぐに、課題のある問題のやり直しをさせる。（課題を課題として残さない）



検証改善サイクルは、日々の授業の積み重ねです。次頁にあるように「『確かな学力』を育む授業のチェックシート」（例）を活用して、授業改善を図っていきましょう。

チェックリスト		評価
学習態度	正しい姿勢を保つよう指導していますか	
	私語や手遊びをせずに、先生や発表する人に体を向けて話を聞くよう、指導していますか	
学び方	発表の仕方（伝える相手を見て、自分の言葉で伝わるように等）を指導していますか	
	ノートの取り方（板書と対応した、自分の考えや気づきを残す等）を指導していますか	
授業づくり	「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を板書していますか ※学習指導要領及び解説に示された内容・本時の評価基準に基づく「めあて」にしましょう。	
	学習課題を解決する見通し（手順や留意点等）を児童生徒にもたせていますか	
	自力解決や協働（共同）解決の場を設けていますか	
	児童生徒の気づきや間違いの中にある良さを認め、褒めていますか	
	話し合いや練り上げの場面で、話し合いの視点や検討の視点を示していますか	
	児童生徒の気づきを生かしながら教科の用語を用いて、何を学んだかが分かる「まとめ」を板書していますか	
	「〇〇が分かった」「〇〇が出来るようになった」と実感できる適用問題（練習）や振り返りの時間を確保していますか	
工夫点	（※ 自校で考えたチェックポイント等の欄）	
	（※ 自校で考えたチェックポイント等の欄）	

「確かな学力」を育む授業のチェックシート」（例）

## 2 補充的な学習の計画的な実施に向けて

上益城郡内には、基本的な知識・技能の確実な定着を図る取組を以下のように推進されている学校があります。

### 管内の参考となる取組例

#### 【朝の活動】

- 朝活動の時間には、各教室に担任以外も入り、複数体制で指導をしている。
- 朝活動の時間には、10分間読書をしている。
- 図書館を計画的に活用し、学年で曜日を決めて、「次の読んでみたい本」探しを行っている。



#### 【放課後】

- 放課後の時間帯に、保護者や地域、そして、教職を目指している大学生にボランティアとの連携による学習支援を行っている。
- 毎週決めた曜日の6校時や放課後を、教え合い・学び合う内容にして、教科を絞った（国語、算数）プリント学習を、全職員で指導したり、早く終わった児童生徒が友だちに教えたりする時間を設けている。



#### 【定期】

- 年5回、5教科の基礎基本の定着をみるテストを、クラスマッチ形式で実施してすることで学習意欲の喚起を図っている。子ども同士で声を掛け合う姿が見られるようになった。
- 日本の都道府県を覚えるなど、縦割り班でゲーム形式で取り組んでいる。



#### 【効果を上げている学校の共通点】

日課表を見直し、朝活動の時間や放課後の時間を活用した、学力向上を目的とした特設の「〇〇タイム」を設定されている学校があります。

その中でも、効果を上げている学校には、以下の共通点があります。

- 担任外も関わっていること
- 効果を上げている担任の実践を交流する場を設けていること  
具体的に、「〇〇タイム」の進め方を紹介し合い、効果を上げている先生に学ぶ雰囲気づくりができています。

### 3 家庭における学習習慣の確立に向けて

上益城郡内には、家庭学習の習慣定着を図る取組を、以下のように推進されている学校があります。

#### 管内の参考となる取組例

##### 【児童生徒に対して】

##### ○ 家庭学習のやり方を指導している。

家庭学習のノートを見開き1ページで進めるように指導している。(左ページは、基礎基本の徹底をはかるための課題。右ページは、学習の深まりを図るための選択課題。)

##### ○ 家庭学習の見通しを持たせている。

帰りの会の10分間で、家庭学習の計画を立て、実際に取り組むことにより、家庭学習の見通しを持たせている。

##### ○ 家庭学習を復習として位置づけている。

毎日の課題として、その日の学習内容を家庭学習ノートに最低1ページまとめることを課題としている。また、家庭学習ノートは毎朝提出させ、点検・評価をしてその日のうちに返却している。



##### 【家庭に対して】

##### ○ 「家庭学習の手引き」を活用している。

「家庭学習の手引き」を作成し、4月当初の学級懇談会や家庭訪問で、活用方法を説明するとともに、家庭学習状況調査を毎月第3週に実施する。適宜、個別の取組の状況を説明し、家庭とともに進める「家庭学習」を推進している。

##### ○ 家庭学習のモデルを紹介している。

家庭学習のモデルとなるものは、カラーコピーして廊下に掲示し、児童生徒の意欲付けを図っている。また、校長が作成する「学校通信」で紹介し、全家庭や地域に配付したり、学校ホームページ紹介したりしている。



##### 【効果を上げている学校の共通点】

効果を上げている学校には、以下の共通点があります。

- 学級懇談会やPTA総会等で、「家庭学習の手引き」の意義と活用方法を具体的に、そして、丁寧に説明していること
- 家庭学習の習慣が定着したかを、保護者も定期的にチェックしていること